

先人から受け継がれた 思いをつなげたい

高い精度が求められる技術

自然が生み出した芸術ともいえる東尋坊を堪能した後、今度は人間が作り出す芸術作品の魅力に触れようと、坂井市丸岡町上久米田にある「越前竹人形の里」に向かいました。

軽くて丈夫、その上、年月を経るごとに色が変わって味わ

福井県出身の作家、水上勉さんの小説

『越前竹人形』の発表で

一躍全国に知られることとなった竹人形。

糸のように細い人形の髪の毛も一本ずつ

すべて職人の手作業で作られています。



ナタを使って青竹を細く割っていきます。体調が仕上がりに影響します

を増す竹製品。ここでは、竹人形や竹かごなどの竹製品を多数展示・販売しているほか、竹とんぼなどの竹細工教室も開催しています。大人から子どもまで楽しめます。人気のある観光地の一つです。

館内の工房で熟練の技を披露する竹人形職人・山岸高音さんやまぎしたかねに話を伺いました。

「竹人形づくりで特に難しいのが、髪の毛を作る作業です。太さ0.2ミリメートルと糸のように細く竹を割っていきます。太さにばらつきがでないように、高い精度が求められます。目で確認しながら行うという感覚ではありません。身体の内芯と心の芯の両方でバランスをとる感覚です」。

かつて至る所に竹やぶがあった福井県では、古くから竹製品づくりが行われ、昭和27年の越前竹人形協同組合の設立とともに高度な技術を要する竹人形づ

くりが本格化。設立以来、細かい部品の一つひとつも手作業にこだわり、竹の節や曲線、弾力性を活かした温かみのある人形づくりを目指してきました。昨年は19万人以上の観光客が越前竹人形の里を訪れましたが、そのほとんどが県外からという事実が越前竹人形のブランド力を示しています。

伝統ある匠の技が生み出す竹人形について、山岸さんは「竹は縁起物として、古くから日本人に親しまれてきました。先輩職人が一生懸命に育んできた伝統ある越前竹人形の魅力を、もっと多くの人に知ってほしいと思います。そのために私自身も、常に技術を磨いていきたいです」と語ってくれました。



お問い合わせ：越前竹人形の里
TEL：0776-66-5666



1本0.2mmの太さの竹を約5,000本
つけて女性の髪の毛ができていきます